Ｎｏ．４０７【２０２０年５月２２日配信】
市立図書館の建物はどこに移築されたか（担当：村上）

こんにちは。歴史資料室の村上です。

私は「あおもり歴史トリビア」第 56 号（2013 年 5 月 10 日配信）で大正時代の青森市立図書館についてご紹介しました。今回はその続編です。

大正時代の市立図書館は現在の古川小学校の位置にありました。建物はもともと明治 43 年（1910）11 月に開庁した帝室林野管理局青森支局（皇室所有の森林を管理する機関）の庁舎でしたが、大正 3 年（1914）に青森支局が廃止されたため、翌年から市立図書館として使用されるようになりました。

古川にあった青森市立図書館
（『目で見る青森の歴史』より）

その後大正 14 年、この場所に古川尋常高等小学校（現古川小学校）が建設されることになり、市立図書館は橋本へと移転しました。市立図書館の建物は新町の三浦永太郎が購入し、移築して青年会館として使用するという考えを示していましたが、移築されたことを示す資料を見つけることはできませんでした。

さて、この市立図書館の建物について、先日、新たな資料を発見しました。昭和 3 年（1928）3 月 30 日付の『東奥日報』夕刊に「昭和女学校募生」という記事があり、青森営林局（現青森市森林博物館）の向かいにあった「元青森図書館」の建物を校舎として使用するという記述があったのです。この「元青森図書館」が古川にあった市立図書館を指しているのではないかと考え、さらに調べたところ、昭和女学校の校舎の写真を見つけることができました（昭和 3 年 4 月 4 日付『東奥日報』朝刊）。市立図書館の写真と比較したところ、窓や屋根の特徴が一致していることから、同じ建物と考えられます。つまり、古川にあった市立図書館の建物は沖館に移築されていたのです。

昭和女学校とは昭和 3 年 4 月に油川町出身の柿崎平蔵が開設した私立の女学校です。この学校については、昭和 4 年 12 月に沖館尋常小学校（現沖館小学校）が火災のため校舎を失った際、教室を提供したという記録が残っています。沖館小学校の学校沿革によると、この時、昭和女学校のほか鉄工所や缶詰工場が仮校舎として使われたといいます。また、沖館尋常小学校の「学校看護婦」を務めていた葛西タカによると、昭和女学校には沖館尋常小学校の本部が置かれており、児童数が一番多く、設備も整っていたそうです。

市立図書館としての役割を終えた建物は女子教育の場として、そして火災で校舎を失った小学生たちの学びの場として使用されていたのですね。

※今回の内容は葛西タカ『養護室記録』（1943 年　長崎書店）などを参考にしました。